

## 5 甲府市を取り巻く現状

### (1) 市民の意向

- 平成26年度市民アンケート調査

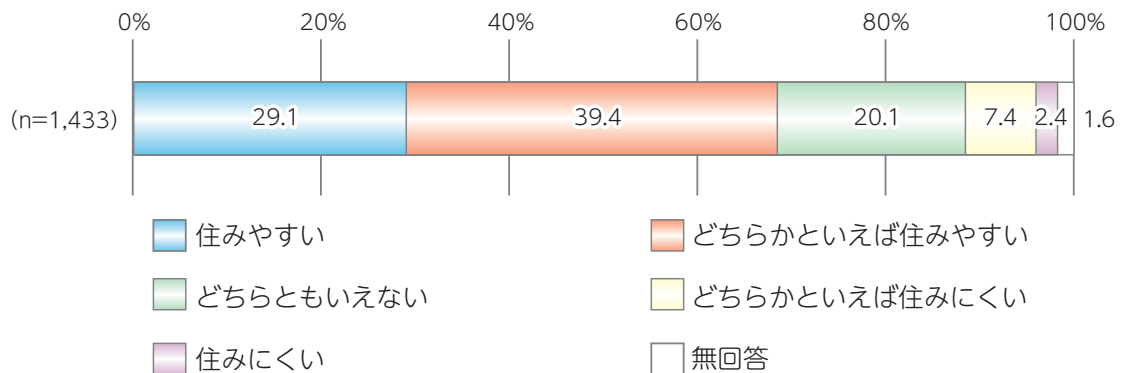
18歳以上の市民4,000人(無作為抽出)を対象に、甲府市の住みやすさ、未来のあるべき姿などに関するアンケート調査を実施しました。

- 平成25年度市民満足度調査

20歳以上の市民2,000人(無作為抽出)を対象に、甲府市の施策及び事務事業に関する市民の満足度と重要度の調査を実施しました。

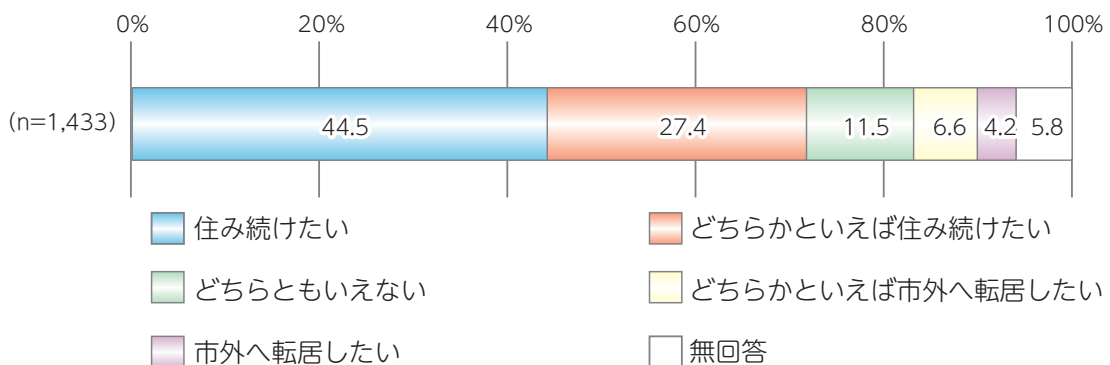
#### ① 住みやすさ(平成26年度市民アンケート調査)

甲府市を住みやすいと感じている層(「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計)が70%に近く、多くの市民が甲府市を住みやすいと感じています。



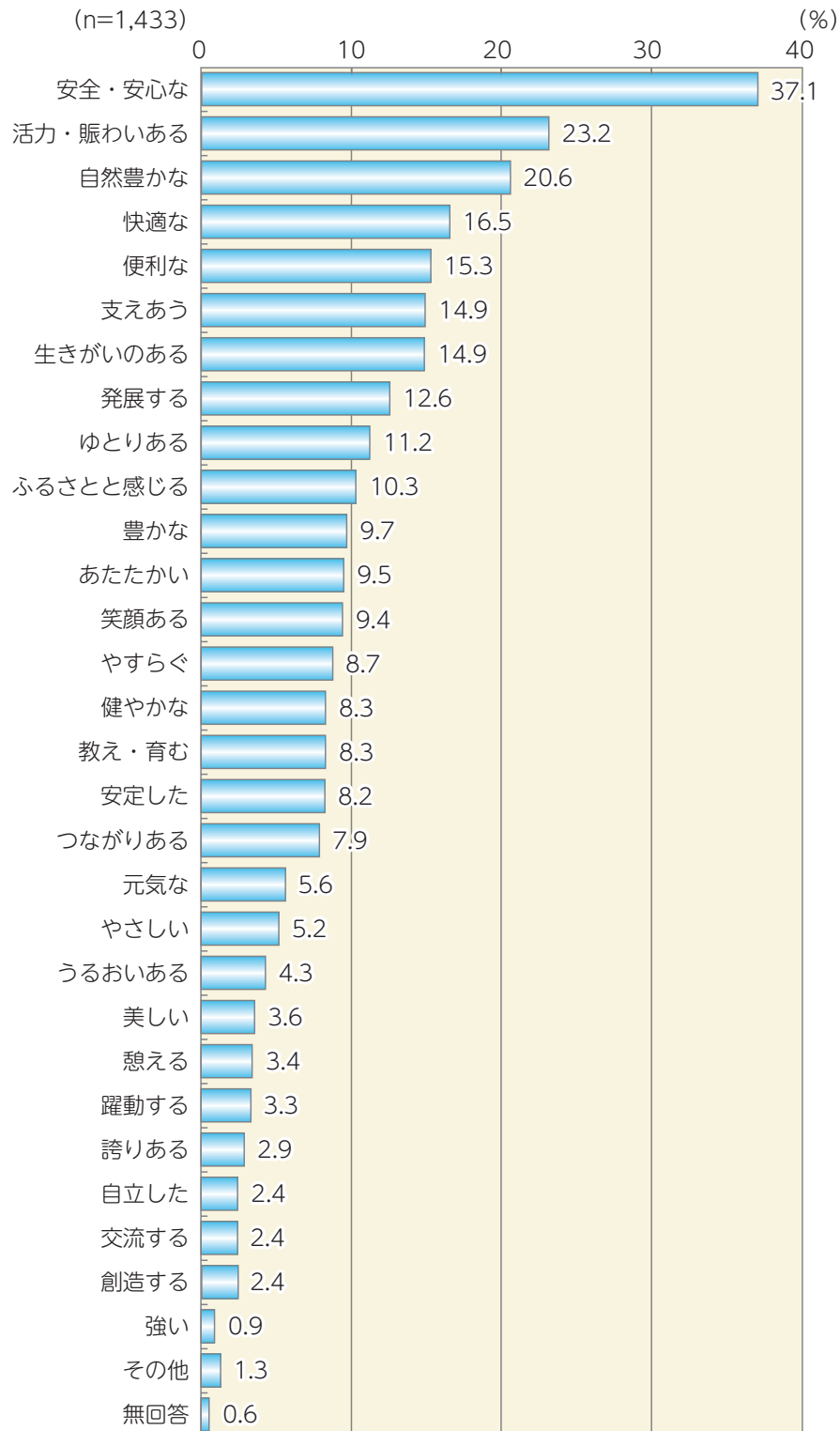
#### ② 居留意向(平成26年度市民アンケート調査)

これからも甲府市に住み続けたいと思う層(「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」の合計)が70%を超えており、多くの市民が甲府市に住み続けたいと思っています。



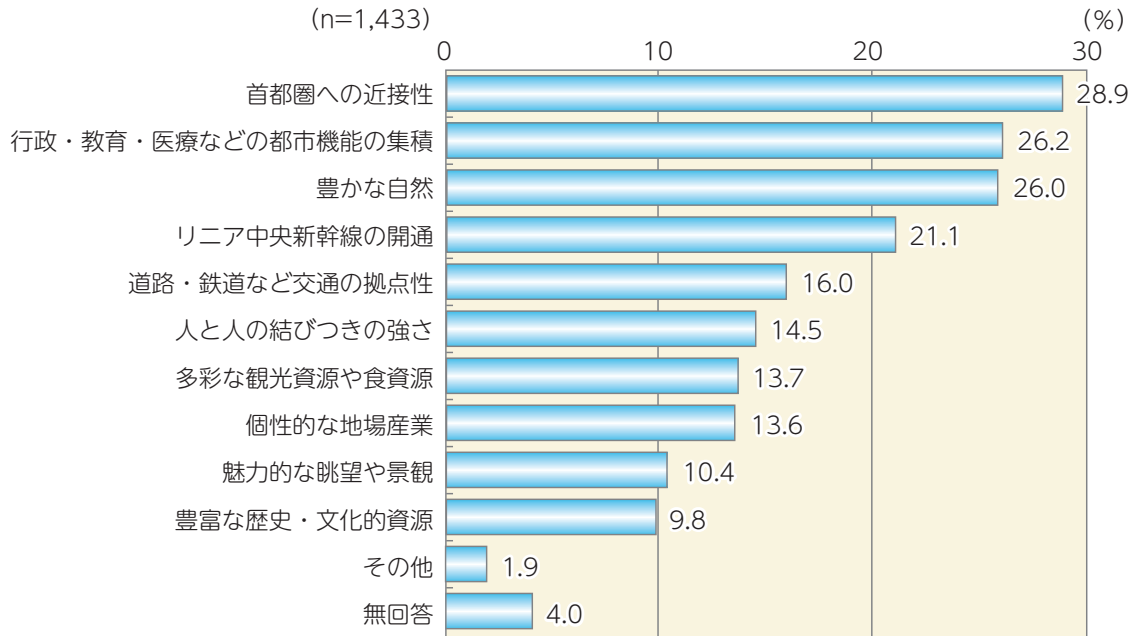
③ 未来の甲府市の姿としてふさわしいキーワード(平成26年度市民アンケート調査)

「安全・安心な」が最も多く、次いで「活力・賑わいある」「自然豊かな」「快適な」「便利な」となっています。



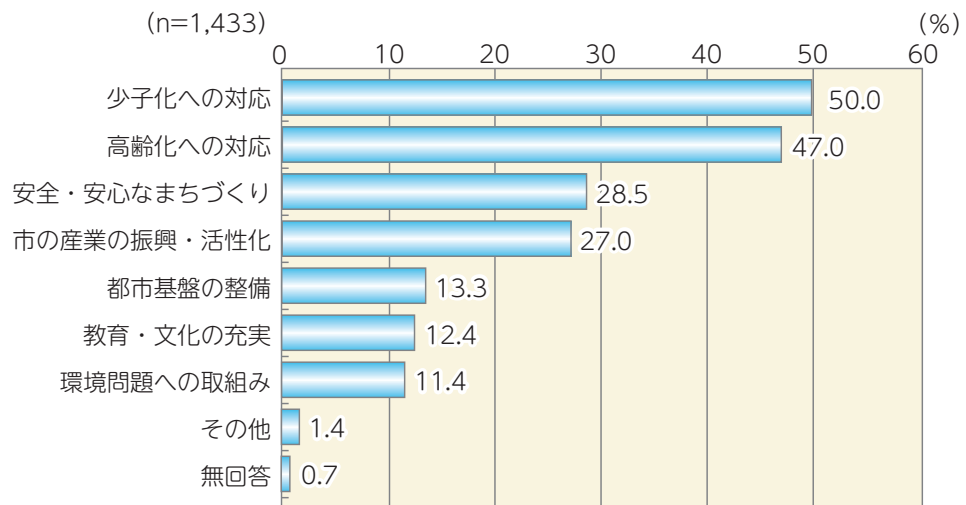
④ 未来に活かしていきたい甲府市の魅力(平成26年度市民アンケート調査)

「首都圏への近接性」「行政・教育・医療などの都市機能の集積」「豊かな自然」「リニア中央新幹線の開通」が上位となっています。



⑤ 未来のまちづくり(平成26年度市民アンケート調査)

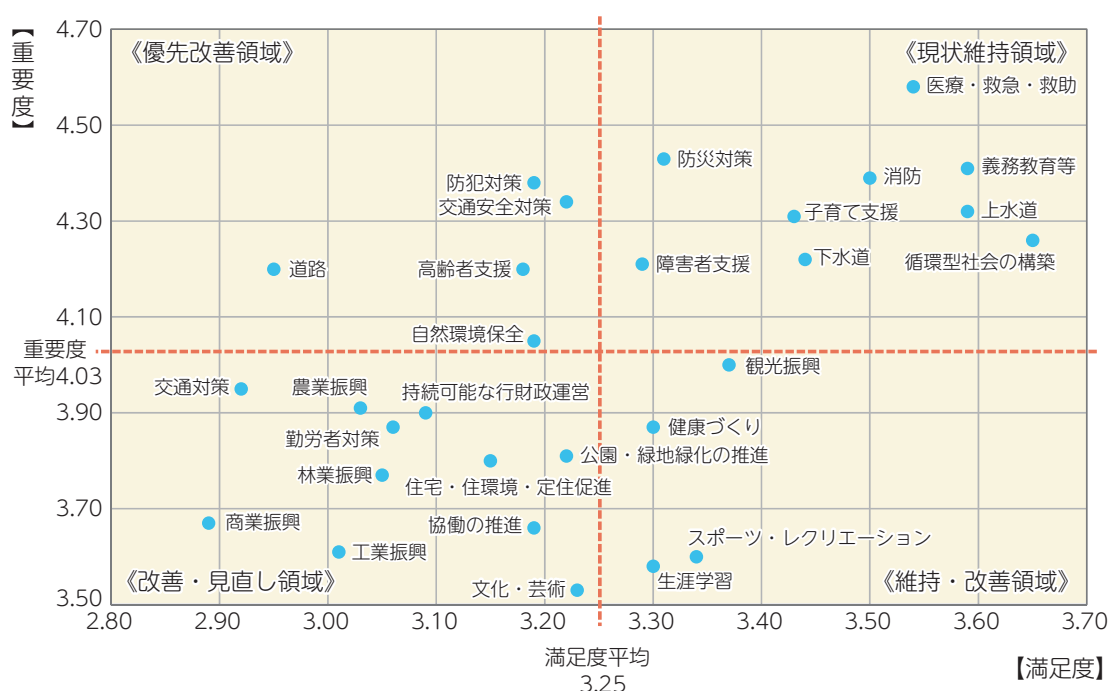
「少子化への対応」と「高齢化への対応」が特に重要と考えられており、次いで、「安全・安心なまちづくり」や「市の産業の振興・活性化」も重要と考えられています。



⑥ 施策の基本区分ごとの満足度・重要度(平成25年度市民満足度調査)

「満足度」が低く「重要度」が高い優先的な改善が必要な領域に入る施策の基本区分は「道路」等となっています。また、「満足度」「重要度」ともに高い現状を維持する必要がある領域に入るものは「循環型社会\*の構築」「上水道」「義務教育等」「医療・救急・救助」等、「満足度」が高く「重要度」が低い現状を維持・改善する必要がある領域に入るものは「スポーツ・レクリエーション」「観光振興」「生涯学習」等、「満足度」「重要度」ともに低い改善・見直しが必要な領域に入るものは「商業振興」「交通対策」「工業振興」等となっています。

施策の基本区分ごとの満足度・重要度の関係



- ※ 第五次甲府市総合計画の施策の基本区分ごとに、「満足度」と「重要度」を伺い、それぞれの回答について「満足」・「重要」を5点とし、以下「やや満足」・「やや重要」、「ふつう」、「やや不満」・「あまり重要でない」を1点ずつ減じ「不満」・「重要でない」を1点と換算し、項目ごとの合計を有効回答数で除して数値化しました。
- ※ 項目間の相対的な位置付けを整理するため、「満足度」を横軸に、「重要度」を縦軸にとり、各項目の「満足度」と「重要度」の数値を散布図に示しました。
- ※ 「満足度」と「重要度」の関係を示す領域線(点線)は、それぞれの平均値を使用しています。

## (2) 市民ワークショップの提言

新たな総合計画の策定にあたり、無作為抽出によって送付した参加案内に応募していただいた市民の中から選ばれた38人で構成する市民ワークショップ\*を、平成26年10月から平成27年2月まで毎月1回、全5回開催しました。

ワークショップにおいては、市民の視点から「甲府市の強み」や「目指すべき甲府市の姿」について意見交換が重ねられ、「私たちが考える『甲府の未来』」とした提言書にまとめられました。

豊かな自然や豊富な歴史・文化資源、都市機能の集積、東京との近接性、特色ある地場産業や食資源、人と人との結びつきの強さ、更には、リニア中央新幹線の開業効果といった甲府市が持つ数多くの強みを活かした甲府市の未来の方向性と、その実現に関する様々な取組のアイデアが提言されています。

### 提言された甲府市の未来の方向性

- ふるさと（田舎）の暮らしやすさと、都市の便利さを活かして住むに良いまち・訪れるに良いまち甲府市をつくろう
- 今あるもの（都市基盤・都市機能）を活かし、「住みやすい・住みたくなる」甲府市をつくろう
- 歴史と文化を深く知り伝え、郷土愛ある人々が集い合う豊かな甲府市をつくる
- 甲府市は豊かな自然で「住む人」・「来る人」に幸せを提供します



武田 24 将騎馬行列



御岳昇仙峡仙娥滝



デラウェア

### (3) 財政状況

平成18年度から平成26年度までの財政状況をみると、新庁舎建設などにより事業規模が拡大した平成24年度を除いては、歳入、歳出ともに、700億円前後で推移しています。

歳入のうち自主財源である市税は、長引いた不況などを背景に平成21年度以降300億円を下回る状況にあり、歳入全体に占める割合も4割程度と低迷が続いています。

歳出のうち義務的経費<sup>\*</sup>である扶助費<sup>\*</sup>については、生活保護費などの伸びから増加の一途をたどり、平成26年度は平成18年度に比べ約1.7倍となっています。

このように、市税収入の低迷や扶助費の著しい増加などが、財政を圧迫する大きな要因となっています。

また、主要財政指標でみると、実質公債費比率<sup>\*</sup>や将来負担比率<sup>\*</sup>は、市債<sup>\*</sup>発行の抑制や合併特例債<sup>\*</sup>の有効活用などにより年々改善されているものの、財政力指数<sup>\*</sup>は平成21年度以降減少傾向が続くとともに、経常収支比率<sup>\*</sup>については、約90%と高い水準で推移しており、厳しい財政状況にあるといえます。

#### 財政状況の推移(一般会計)

(単位 百万円・%)

項目 \ 年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
市税	29,404	31,217	30,983	29,119	28,651	28,686	28,368	28,829	29,040
地方交付税 <sup>*</sup>	6,000	6,028	6,367	7,455	8,397	8,792	8,669	9,553	8,605
地方譲与税等 <sup>*</sup>	5,663	3,751	3,543	3,427	3,377	3,210	3,012	3,158	3,511
国・県支出金 <sup>*</sup>	10,528	10,878	15,603	15,452	16,860	16,322	16,534	16,579	17,690
市債	6,938	6,940	7,511	6,641	8,203	8,737	11,581	7,172	7,212
その他	9,038	8,417	7,507	10,650	7,155	7,224	8,394	6,496	7,151
歳入合計	67,571	67,231	71,514	72,744	72,643	72,971	76,558	71,787	73,209
人件費	12,434	12,094	11,589	11,667	12,092	11,477	11,742	11,076	11,205
扶助費	10,834	11,547	11,945	12,585	15,571	16,463	17,219	17,392	18,249
投資的経費 <sup>*</sup>	11,321	10,146	10,800	12,747	12,733	12,164	15,941	10,007	10,017
公債費 <sup>*</sup>	8,143	8,617	8,215	7,517	6,238	6,282	6,390	6,251	6,211
その他	24,140	24,306	25,259	27,463	25,115	25,137	24,929	25,437	26,068
歳出合計	66,872	66,710	67,808	71,979	71,749	71,523	76,221	70,163	71,750
財政力指数	0.808	0.826	0.836	0.819	0.793	0.767	0.756	0.755	0.758
経常収支比率	87.3	88.5	88.9	89.7	88.2	89.3	91.7	89.2	91.2
実質公債費比率	20.8	17.9	16.7	15.2	13.4	12.0	10.9	9.8	8.6
将来負担比率		139.5	108.7	91.5	75.2	71.0	73.2	65.0	66.2